

避難所の環境改善に向けた BHELPの取組み



BHELP運営委員会

田口 裕紀子 石井 美恵子 恩部 陽弥 峯田 雅寛 山田 英子
是枝 大輔 三和田陽介 加藤 渚 張替 喜世一 大友 康裕



BHELP標準コース

Basic Health Emergency Life Support for Public

□ 目的

- ・発災直後から避難所での活動を効果的・効率的に実践すること
- ・災害対応における知識、共通の言語と原則を理解し、被災者の生命と健康の維持、災害発生直後からの被災地内での災害対応能力向上に資すること

□ 受講資格

- ・被災地域内で発災直後から支援者となり得る医療・保健福祉に関連する専門職
- ・防災業務に従事する行政職員

□ 2016年2月以降、全国でコースを開催。総受講者数3,600名超。



コースの概要

□ 学習目標

1. 災害対応に関する共通言語と共通原則がわかる
2. 自らの生命を守るための行動が想定できる
3. 被災した住民の生命を守るための行動がわかる
 - 1 傷病者の救護: CSCATTT
 - 2 要配慮者の救護: **CSCAHHH**
 Health care Triage ヘルスケアトリアージ
 Helping Hand 手を差し伸べる
 Handover つなぐ
4. 住民の健康維持に配慮した避難所の設営と運営の留意点がわかる。
5. 要配慮者への体制整備(福祉避難所)の必要性がわかる

□ 5つの学習目標にそったプログラム

□ 各講義・演習毎に目標設定

BHELP 標準コース プログラム

時間	分	教授法	内容
09:00~09:10	10		オリエンテーション、スタッフ紹介
09:10~09:30	20	講義	BHELP 標準コースの概要
09:30~10:05	35	演習 1	自らの生命を守るための行動と備え
10:05~10:50	45	講義 1	災害対応に関する共通言語 CSCATTT
		演習 2	発災直後の指定緊急避難場所での応急的な対応
10:50~11:00	10	休 憩	
11:00~11:55	55	講義 2	要配慮者対応の共通言語 CSCAHHH
		演習 3	要配慮者の生命と健康を守るために
11:55~12:45	50	昼 休 憩	
12:45~13:20	35	演習 4	緊急指定避難場所から生活の場としての指定避難所への移行
13:20~13:50	30	講義 3 演習 5-①	避難所の生活環境のアセスメント
13:50~14:05	15	演習 5-②	避難所で生じやすい健康問題と予防対策
14:05~14:45	40	演習 5-③	
14:45~14:55	10	休 憩	
14:55~16:00	65	演習 5-④	生活環境改善のためのレイアウト
16:00~16:05	5	筆記試験	
16:05~16:20	15	講義 4	福祉避難所開設、福祉避難所の管理運営
16:20~16:30	10	質疑応答・修了式	

地域保健・福祉の体系的な対応の原則

C ommand &Control	指揮統制／調整
S afety	安全の確保
C ommunication	情報伝達
A ssessment	評価

Health care Triage ヘルスケアトリアージ

: 避難所での生活の継続が可能か否かを保健福祉的視点で判断する

Helping Hand 手を差し伸べる

: 要配慮者の生命を守るための支援をする

Handover つなぐ

: 避難所内外の人的・物的資源につなぎ、ケアを継続する

